

茶道流派の起源・系譜略図

1336-1573

室町時代

1467-1615

戦国時代

1568-1600

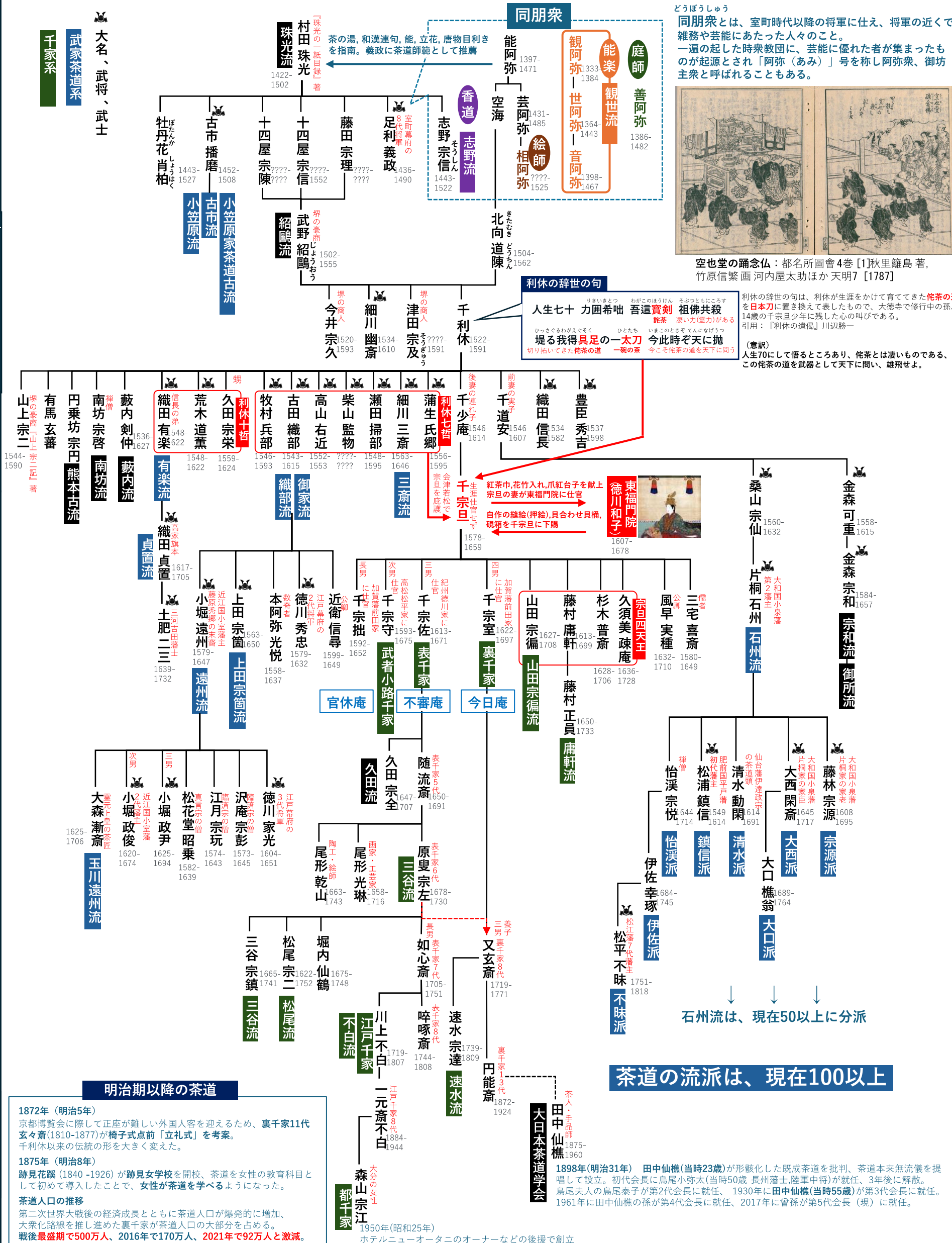
安土桃山時代

1603-1868

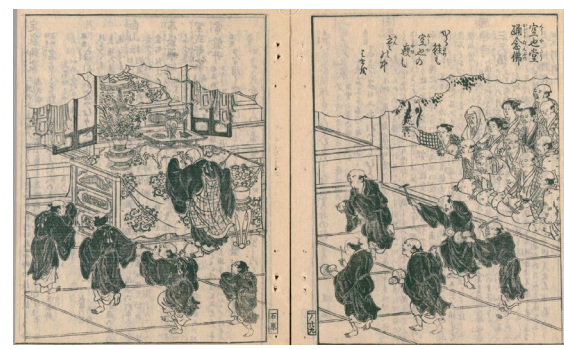
江戸時代

1868-1912

明治時代



どうほうしゅう
 同朋衆とは、室町時代以降の将軍に仕え、将軍の近くで雑務や芸能にあたった人々のこと。一遍の起した時衆教団に、芸能に優れた者が集まったものが起源とされ「阿弥(あみ)」号を称し阿弥衆、御坊主衆と呼ばれることもある。



空也堂の踊念仏：都名所圖會4巻 [1]秋里籬島 著、竹原信繁 画 河内屋太助ほか 天明7 [1787]

利休の辞世の句
 人生七十 力困希咄 吾這寶剣 祖佛共殺
詫茶 凄い力(蛮力)がある
 ひささぐわがえぐく ひとつは いまこのときぞてんになげうつ
 握る我得 具足の一大刀 今此時ぞ天に抛
切り拓いてきた詫茶の道 一碗の茶 今こそ詫茶の道を天下に問う

利休の辞世の句は、利休が生涯をかけて育ててきた**詫茶の道**を**日本刀**に置き換えて表したもので、大徳寺で修行中の孫、14歳の千宗旦少年に残した心の叫びである。
 引用：『利休の遺稿』川辺勝一
 (意訳)
 人生70にして悟るところあり、詫茶とは凄いものである、この詫茶の道を武器として天下に問い、雄飛せよ。

茶道の流派は、現在100以上

石州流は、現在50以上に分派

明治期以降の茶道

1872年(明治5年)
 京都博覧会に際して正座が難しい外国人客を迎えるため、裏千家11代玄々斎(1810-1877)が椅子式点前「立礼式」を考案。千利休以来の伝統の形を大きく変えた。

1875年(明治8年)
 跡見花蹊(1840-1926)が跡見女学校を開校、茶道を女性の教育科目として初めて導入したことで、女性が茶道を学べるようになった。

茶道人口の推移
 第二次世界大戦後の経済成長とともに茶道人口が爆発的に増加、大衆化路線を推し進めた裏千家が茶道人口の大部分を占める。
 戦後最盛期で500万人、2016年で170万人、2021年で92万人と激減。

1898年(明治31年) 田中仙樵(当時23歳)が形骸化した既成茶道を批判、茶道本来無流儀を提唱して設立。初代会長に鳥尾小弥太(当時50歳 長州藩士、陸軍中将)が就任、3年後に解散。鳥尾夫人の鳥尾泰子が第2代会長に就任、1930年に田中仙樵(当時55歳)が第3代会長に就任。1961年に田中仙樵の孫が第4代会長に就任、2017年に曾孫が第5代会長(現)に就任。

大日本茶道学会
 茶人・手品師 田中仙樵 1875-1960
 1950年(昭和25年)
 ホテルニューオータニのオーナーなどの後援で創立